

事業活動にともなう環境配慮

CO₂ 排出量の削減と CO₂ 吸収の取り組み

地球温暖化の防止

地球温暖化防止の取り組み (CO₂ 排出量削減) と省エネ法対応

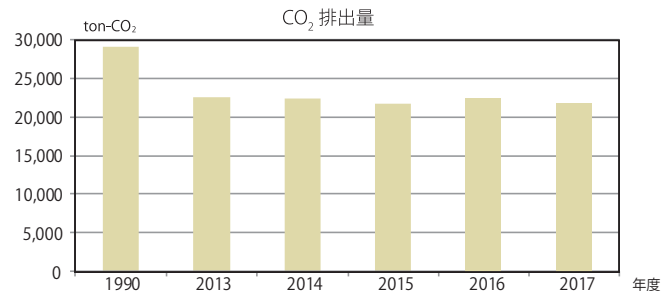
カワイグループでは地球温暖化の防止を環境経営の重点項目と位置づけ、工場では省エネに配慮した設備の導入、LED照明への更新、電力会社による定期的な省エネ診断、オフィスでは夏期の「ノーネクタイ」「ノー上着」活動、冷房設定温度を上げる「クールビズ」運動、冬期の暖房設定温度を20℃以下に保つ「ウォームビズ」運動を展開し、エネルギー使用によるCO₂の排出量の削減に取り組んでいます。

工場の統廃合や海外進出にともない、生産系事業所のCO₂排出量は大幅に削減された結果、カワイグループ全体の2017年度のCO₂排出量は京都議定書基準年の1990年度に比較すると25.1%削減されています。

省エネ法（「エネルギー使用の合理化等に関する法律」）は、一定以上のエネルギーを使用している会社（「特定事業者」）にエネルギー使用の合理化のためのエネルギー管理を義務づけており、エネルギー使用量の実績報告や中長期の省エネ計画を届け出ることを規定しています。カワイグループでは（株）河合楽器製作所、カワイ精密金属（株）、（株）カワイキャスティングが特定事業者に、ピアノ製造の竜洋工場、鋳鉄铸件製造の（株）カワイキャスティングの2工場が第二種エネルギー管理指定工場に指定されています。

2017年度は3つの事業所とも省エネ法の事業者クラス分け評価制度で目標を達成した優良事業であるSクラス*の評価を受けました。（*：エネルギー消費原単位または電気需要平準化原単位の5年間平均原単位変化が1%以上の削減という努力目標達成事業者）

現在、多くの生産系事業所でISO14001環境マネジメントシステムを導入しており、今後とも継続的にCO₂排出量、エネルギー使用量の削減に取り組んでまいります。



海外植林活動 インドネシアの「カワイの森」

ピアノをはじめとした楽器には多くの木材や天然素材が使用されています。このため、創業80周年記念事業として2007年にカワイグループ社員の有志により設立されたカワイの森育成会（河合弘隆会長）は、カワイグループの地球環境憲章の基本理念に則り、CO₂の吸収源の確保、樹木が伐採された土地に森林を再生すること、持続可能な木材資源の確保を目指して、インドネシア現地法人とインドネシア森林公社との連携のもと、海外生産拠点のあるインドネシアにおいて植林活動を行なっています。



2017年に第2期植林（2013年度～2017年度）が完成し、第1期（2007年度～2012年度）と合わせて500ha、約50万本の植林を行いました。現在、ほとんどの樹木が元気に成長しており、「カワイの森」により年間7,750ton程のCO₂の吸収効果があると試算しており、カワイグループ全体のCO₂排出量の34%程度を吸収しているものと考えられます。

2018年2月には、これまでのカワイグループ従業員の寄付によるカワイの森育成会の植林活動に対し、インドネシア森林公社本部から感謝状が授与されました。

また、2017年度には、水産養殖等の目的で急速に破壊されたマングローブ林を再生し、生態系の回復や海岸浸食の防止を目的として西ジャワ州カラワン県CIKIONGの海岸約15haに約12,500本のバカウ（Bakau、マングローブ）の植林を行いました。



2014年に植林したチークの生育状況視察
(2017年10月 管理本部・星井副本部長、
PT.Kawai Indonesia・Rudi Asep GMg)



インドネシア森林公社から感謝状の授与
(2018年2月、森林公社本部役員と河合弘隆
カワイの森育成会会長)



マングローブ林 (Bakau) 植樹
(KAWAI-PerumPerhutani の標識)
(2017年、カラワン県 CIKIONG)